



Annual Report 2011 2012 年9月30日発行

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地 知床自然センター内 公益財団法人 知床財団 Tel 0152-24-2114 Fax 0152-24-2115 E-mail:info@shiretoko.or.jp

# REPORT 2011

2011 年度活動報告書

世界自然遺産  
知床を未来へ

皆様からのご支援が、  
知床の自然保護活動を  
支えています。



知床財団  
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

# Contents

## 2011年度年次報告に寄せて

公益財団法人 知床財団 理事長 関根郁雄

ごあいさつ  
2011年度決算概要  
賛助会の状況  
寄附状況

### 【公益事業①】普及啓発事業

地域向け環境教育業務  
旭川市旭山動物園との連携協力業務  
野生生物学習教材トランクキットの作製と運用業務  
スタッフ研修業務  
JBN業務  
情報発信・センター拡大業務  
ボランティア活動推進業務  
人材育成・就業体験受入業務

### 【公益事業②】施設管理事業

ビジター向けインフォメーション業務  
知床自然センター内外刷新業務  
知床自然センター等管理運営業務  
羅臼ビザーセンター管理運営業務  
ルサフィールドハウス管理運営業務

### 【公益事業③】調査研究・野生動物対策事業

エゾシカ個体群の動態に関する調査業務  
ヒグマの生態等に関する調査業務  
知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務  
希少鳥類などの長期モニタリング業務  
海生哺乳類モニタリング業務  
水域における生物群集モニタリング業務  
学術的な交流と成果公表に関する業務

2	シホテアリン世界遺産交流事業	20
3	酪農学園大学との連携協力業務	21
4	ヒグマ管理対策業務	21
6	自然環境管理対策業務	23
	エゾシカ関連業務	24
	外来生物の調査・対策業務	26
7	野生鳥獣対策フェンス等設置・検証業務	26
8	オオセグロカモメの調査等業務	27
9	遺産地域調査業務	28
9	科学委員会等運営業務	28
10	【公園利用管理事業】	
11	知床五湖利用適正化業務	29
13	適正利用・エコツーリズム検討業務	30
13	カムイワッカ地区利用適正化業務	30
14	【森林再生事業】	
14	しれとこ100平方メートル運動森林再生業務	31
14	しれとこ100平方メートル運動普及推進業務	33
15	【収益事業】	
15	販売・有償貸出業務	34
	研修実習受入業務	35
17	【財団法人管理運営事業】	
17	組織概要	36
18		37
19	目次、本文中にあるマークは、寄附金・賛助会費によって実施している事業であることを示しています。	
19		
19		
19		

### ■知床財団の使命

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、世界遺産知床の自然を守り、より良い形で次世代に引き継いでいきます。  
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、人間が自然と親しみ調和していく社会の  
発展に寄与します。

2011年度、私たちは公益財団法人として、新たなスタートを切りました。

公益財団法人となるにあたっては、組織の規則や規定を見直し、職員の雇用形態や就業規則などについても、より安定的で保証された身分のもと、働きやすい職場となるよう手を加えました。知床の自然環境保全に少しでも貢献するために、職員が安心して仕事に集中できる環境を整えました。

職員が、仕事の少なからぬ時間を割く野生動物に、エゾシカとヒグマがいます。

増えすぎたことによって生態系に大きな影響を与えるエゾシカについては、環境省・林野庁がこれまで以上に大規模な捕獲事業を開始し、私たちは専門的な知識や技術を活かして現場を担い、国内で他に例のない高い捕獲効率を達成することができました。専門的な知識や技術には、皆様からの会費や寄附で継続してきた、知床財団としての「独自事業」によって培われたものが多数あります。これまでの地道な歩みが形になったことをご報告申し上げるとともに、あらためて感謝申し上げる次第です。

もう一方のヒグマについては、実はこれまできちんと確立された保護管理方針がありませんでした。



有識者と関係行政機関などで編成された会合での議論を踏まえ、ようやく2011年度の終わりに待望の方針ができました。私たちが行政とともに手探りで進めてきたヒグマ対応の「後ろ盾」もしくは「拠りどころ」が、ようやく形になったのです。この年次報告書が皆様のお手元に届くころには、その「知床半島ヒグマ保護管理方針」の運用を開始して半年あまりが経過しています。できるだけ実態に合わせてまとめられた保護管理方針ではありますが、ヒグマを相手に同じ対応はひとつとしてありません。この管理方針に依拠したとき、ヒグマ対応の現場で動きがとりづらいことなどがあるかないか…。それも今後の運用のなかで徐々に明らかになって行くでしょう。

ヒグマやエゾシカとともに暮らし、あるいは棲み分けることのできる知床をめざして、私たちは歩みを進めます。今後とも、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### Ikuo Sekine

北海道斜里郡小清水町出身。斜里町政に長く関わり、日本のナショナル・トラスト運動の草分けとなった『しれとこ100平方メートル運動』スタート後の昭和54年度からは、企画振興課長として、この運動を精力的に推進した。その後も斜里町役場、副町長を歴任。平成5年には知床の世界遺産登録を提案、当時の午来町長とともに登録に向けた取組みに邁進し、知床の自然保護活動の歴史に新たな1ページを刻んだ。

#### [歴代理事長及び任期]

藤重千秋 (1988年9月23日～1997年9月23日)  
法量 武 (1997年9月24日～2003年3月31日)  
森 信也 (2003年4月1日～2009年3月31日)  
関根郁雄 (2009年4月1日～)

# 2011年度の決算概要

## 2011年度の総事業費は2億3,900万円

当財団の事業費は「独自事業」、「斜里町・羅臼町委託事業」、「その他委託事業」の大きく3つに分類されます。中でも、独自事業は賛助会員費や寄附金が重要な財源となっています。賛助会員をはじめとする多くの方々の継続的なご支援により、2011年度は全59事業を行いました。

### 独自事業

(事業数28 事業費3,534万円)

賛助会員費や寄附金の他、知床自然センターおよび羅臼ビジターセンターでの販売物収入が主な財源となっています。

### 斜里町・羅臼町委託事業

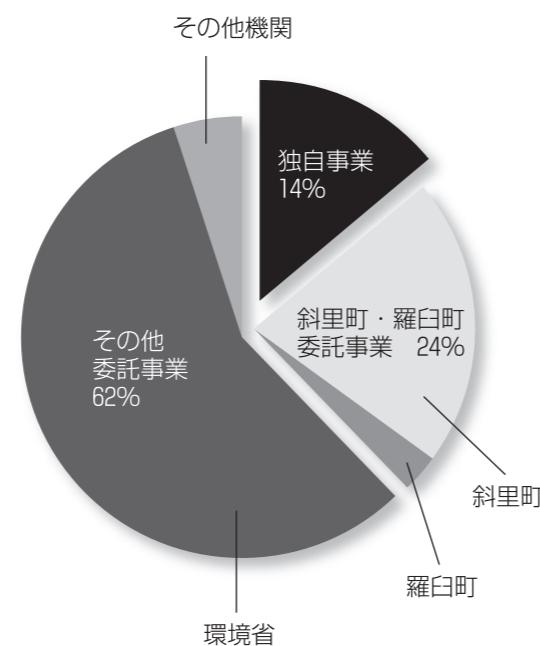
(事業数11 事業費5,926万円)

斜里町からは、知床自然センターなどの指定管理業務やしえとこ100平方メートル運動の現地業務などを受託し、羅臼町からは羅臼ビジターセンターやルサフィールドハウスの運営事業を受託しました。また両町からヒグマ管理対策事業、自然環境保護管理対策事業をそれぞれ受託しました。

### その他委託事業

(事業数20 事業費1億4,444万円)

環境省やその他機関から、各種業務を受託しました。



## 2011年度の決算報告

収入の部	計
基本財産運用収益	30,000
事業費収益	201,619,688
寄附金収益	21,047,370
収益事業収益	14,270,008
雑収益	2,075,299
当期収入計 (A)	239,042,365

支出の部	計
管理費支出	238,633,276
事業費支出	2,258,063
当期支出計 (B)	240,891,339
差額	
当期収支差額 (C=A-B)	-1,848,974

web <http://www.shiretoko.or.jp/aboutus/kifukoui.htm>

# 2011年度の賛助会の状況

私たち知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様に支えられています。2011年度は新たに53名、6団体のご入会がありました。皆様のご支援に、心より御礼申し上げます。

なお、2011年4月より公益財団法人となりました当財団への会費は、所得税、住民税、および相続税における優遇措置を受ける対象となります。詳しくは当財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。  
URL [http://www.shiretoko.or.jp/supporter/support\\_koujyo.htm](http://www.shiretoko.or.jp/supporter/support_koujyo.htm)

### ■2011年度の会員数

個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別年会員
684名	1,032名	40団体	4団体

### ■新規入会

個人年会員46名、個人終身会員7名、法人年会員5団体、法人特別年会員1団体の入会がありました。  
私たちの活動をご支援いただき、心より感謝申し上げます。

【法人年会員】株式会社秀岳荘、株式会社フェニックス、小川建設株式会社、広島フットケア、いるかホテル

【法人特別年会員】光和メディカルクリニックヘルスケアセンター

### ■特別法人年会員

法人名	所在地
商船三井フェリー	東京都
シーライヴ株式会社	大阪府
エース株式会社	東京都
光和メディカルクリニックヘルスケアセンター	東京都

\*太字は2011年度の新規法人

# 2011年度の賛助会の状況

## ■法人会員

法人名	所在地
知床グランドホテル	北海道
オリジナル設計株式会社	北海道
株式会社 ユートピア知床	北海道
株式会社 ノーベル	岐阜県
株式会社 須田製版 釧路支店	北海道
三井農林株式会社 総務部	東京都
有限会社 しれとこ村つくだ荘	北海道
株式会社 河面組	北海道
横浜ブナ林法律事務所	神奈川県
おのクリニック	千葉県
国民宿舎 桂田	北海道
たいせつゼミ	北海道
有限会社 アウトバッく	岩手県
武庫川女子大学附属高等学校	兵庫県
知床オプショナルツアーズ	北海道
株式会社 ネオアローム	東京都
有限会社 みさき水産	北海道
有限会社 赤岩水産	北海道
株式会社 知床プリンスホテル	北海道
岩尾別ユースホステル	北海道

法人名	所在地
羅臼漁業協同組合	北海道
ウトロ漁業協同組合	北海道
知床ナチュラリスト協会	北海道
オコツク漁業生産組合	北海道
株式会社 辻中商店	北海道
有限会社 木切別漁業	北海道
峯浜水産有限会社	北海道
株式会社リリーネット	広島県
医療法人 慈久会 旭が丘ファミリークリニック	三重県
有限会社 知床ネイチャークルーズ	北海道
フロンティア株式会社	北海道
有限会社 らうす第一ホテル	北海道
蔭山 昌代	神奈川県
ナチュラル株式会社	福岡県
株式会社グッドマンサービス	東京都
株式会社 秀岳荘	北海道
株式会社 フェニックス	東京都
小川建設株式会社	北海道
広島フットケア	広島県
いるかホテル	北海道

※太字は2011年度の新規法人

## ■会員期限の年度制への変更

2011年度より個人年会員、法人年会員、および法人特別年会員の会員期限を「入会月から1年間」より「年度制（3月末日期限）」に切り替えました。

# 2011年度の寄附状況

2011年度に一般寄附としてお寄せいただいた件数は73件、総額7,507,740円にのぼりました。内、個人の方からは68件、法人からは5件でした。また、寄附金で実施される事業を指定できる指定寄附としては、3法人より総額15,705,864円を寄附いただきました。ご支援いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

## 【一般寄附をいただいた法人】

法人名	金額(円)
株式会社 フェニックス	37,265
エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社	450,000
株式会社ジェイティービー 北海道国内商品事業部	98,100
有限会社アウトバッく	40,000

## 【指定寄附をいただいた法人】

### 【ダイキン工業株式会社 寄附額：10,000,000円】



ダイキン工業株式会社より知床財団・斜里町・羅臼町に対し、5年間で総額1億1千万円のご寄附をいただくことになりました。2011年7月26日に、四者は知床の自然環境保全に関する協定を締結し、当財団は斜里町・羅臼町と協力しながら以下2つの事業を実施することになりました。

- ・「カツラの森、命あふれる川の復元」事業 (P32参照)
- ・「知床の人とヒグマの共存」事業 (P26参照)

### 【アサヒビール株式会社 寄附額：5,000,000円】



アサヒビール株式会社からアサヒスーパードライ「うまい！を明日へ！」プロジェクト第4弾として当財団にご寄附をいただきました。このプロジェクトは「アサヒスーパードライ」対象商品の売上げの一部を自然環境保全活動に役立てていくものです。今回のご寄附を受け、以下の事業を進めています。

- ・「知床の大切さ、楽しみ方を伝える」事業 (P15参照)
- ・「知床の暮らしと生き物を守る」事業 (P18参照)
- ・「知床でつながる交流の輪」事業 (P20~21参照)

### 【公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 寄附額：705,864円】

当財団が応募したヒグマを知るための学習教材「トランクキット」を作製・運営する企画が日本ユネスコ協会連盟が主催する第2回「プロジェクト未来遺産」の一つに選定され、助成金をいただくことになりました。  
(P9参照)

# 普及啓発事業



▲ウトロ小学校でのヒグマ授業



▲知床キッズ「鯨ウォッチング」  
の事前学習



▲旭山動物園でのヒヤリハットヒグマすごろくの実施風景



## 地域向け環境教育

地域が支える世界遺産・知床を目指して、知床の自然とその自然に携わる人々の活動をより深く知ってもらう機会を様々な形で地域に提供しています。

### (1) 学校教育

#### 斜里町の学校

ウトロ小中学校全校生徒を対象にヒグマ授業を計3回実施しました。毎春恒例となっているこのヒグマ授業は、ヒグマに出会った時の対処法を中心に、様々な切り口から身近な自然に対して子供たちが想像したり、発見したり、そして自分たちで考えてみたりできるよう毎回スタッフが趣向を凝らして行っています。また総合学習の一環として、夏に中学校1年生を対象としたポンホロ沼への課外授業を、秋に中学校3年生を対象とした知床の自然についての講義を、冬に小学校1~6年生を対象とした環境教育授業を行いました。

2011年度はウトロ小中学校の他に、峰浜小学校、朱円小学校、以久科小学校、川上小学校の各全校生徒を対象としたヒグマについての授業を行いました。また、朝日小学校3年生を対象とした課外授業を実施しました。全国ニュースになった斜里町市街地ヒグマ親子侵入事件をきっかけに、斜里町教育委員会がヒグマ授業を各校に推奨したこと、2010年度からウトロ小中学校以外の学校でも実施する機会が増えました。2011年度も引き続き多くの学校から依頼をいただき、私たちが平素から訴えてきたヒグマ授業の重要性が認識されてきたものと思われます。

#### 羅臼町の学校

羅臼町では、中高一貫教育のカリキュラムとして行っているヒグマ授業が、順調に行われています。これは中学1年、中学3年、高校2年の3年間、それぞれの段階に合わせた内容の授業を、各学校に出向いて行うものです。野外調査の体験を取り入れた授業や、生徒同士によるディスカッションなど、毎回充実した授業内容となっていて、先生方から高い評価を受けています。羅臼町公民館などと共に羅臼町内の小学生を対象にして実施している「ふるさと体験教室『知床キッズ』」は、5月から2月までの間に計10回の講座を実施しました。船に乗ってクジラを探したり、コウモリの観察をしたり、冬には羅臼ビジターセンター周辺で雪遊びをしたりなど、様々な体験をしてもらうことができました。



▲ヒグマに出会った時の対処法を学んでいる様子

### (2) 一般向け講座・イベント

ウトロ中学校初任教諭2名を対象に、地域の自然や、野生動物と地元住民が共存していくうえでの課題や取り組み、知床財団の活動について研修を実施しました。

知床博物館と共に毎冬行っている知床自然史講

座は今年で5回目を迎えました。知床を時間的、空間的に幅広い視野で見直し、講座の参加者に知床の価値や大切さを再発見してもらうことを目的とし、当財団職員を含む9人の専門家が講演を行いました。



## 旭川市旭山動物園との連携協力業務

旭山動物園と当財団は2009年から相互に交流を深め、2011年2月に連携協定を結びました。2011年度は、3回目となる共催イベントを旭山動物園にて開催したほか、旭山動物園の職員研修を知床で4回実施しました。

2011年度の共催イベントは、人とヒグマの共存を考えるプログラムを柱に内容を組み立てました。ちょうど開催時期に札幌などの市街地でヒグマの目撃が相次いたことから、来園者のヒグマへの関心が非常に高く、私たちの経験や知識が知床以外の多くの人に役立つことを改めて実感した2日間となりました。新聞各紙やNHKの全国放送枠で取り上げられるなどマスコミの注目も集め、私たちの存在をマスメディアを通して全国にアピールする格好の機会になりました。

職員研修は、旭山動物園の職員が知床財団の業務経験を通じて知床で野生動物と人がどのように関わっているのかを肌で感じてもらい、旭山動物園での展示や一般の方へのレクチャーに活かしてもらえるように努めました。



▲知床でのヒグマの食べ物を知ってもらう「もぐもぐタイム」の様子

# 普及啓発事業



▲トランクキット2号機の作製風景



▲スタッフによる接客講習会



▲道東自然系施設ネットワークの総会の様子



## 野生生物学習教材トランクキットの作製と運用業務

2011年度からヒグマを知るための学習教材「ヒグマトランクキット」2号機の作製に着手しています。これは2010年度に公益社団法人ユネスコ協会連盟から寄付金を頂けることになり実現したものです。一方、1号機の貸出は本年度も順調で、のべ10件、154日間、全国各地に貸し出しました。2012年度は、新たに出来上がった2号機も稼働し、トランクキットが今まで以上に活躍することが期待されます。



## スタッフ研修業務

### (1) 職員研修

インフォメーションに携わる職員向けに、接客スキル向上のための講習会を職員セミナーとして実施し、15名の職員が参加しました。また、新人職員を対象に、以下の研修を行いました。

- ・インタープリテーション研修
- ・羅臼およびウトロの両地域の主要観光地についての研修
- ・ヒグマ対処法の実地研修

### (2) 道東自然系施設ネットワークへの参加

このネットワークは2000年度に試行的にスタートし、2004年度に正式に発足、その後2006年度まで当財団が代表および事務局として運営を担いました。2007年度より事務局業務はもちまわり制となりましたが、引き続きネットワーク運営に積極的に参加しています。

2011年度は11月に根室の春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターにおいて総会およびネットワークに所属する施設の職員のスキルアップのためのワークショップが開催され、当財団からはインフォメーション業務を担当する職員2名が参加しました。



## JBN業務

日本クマネットワーク（JBN）からの受託業務として、JBN会員向けニュースレター「Bears Japan」の発行・発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行・販売、JBNホームページの運営管理を行いました。

### 日本クマネットワークとは

日本クマネットワークは、個人や地域ごとの単独の活動だけでは難しい全国レベルの諸問題や国際問題に関し、必要に応じて社会に対して働きかけを行い、人とクマのより良い関係を構築する活動を行っているNGO組織です。昨年は本州で発生したツキノワグマの大量出没に対応し、全国各地の状況を取りまとめ、その状況を報告するシンポジウムの開催などを行っています。会員は専門家やクマに関心を持つ一般市民、およそ320名で構成されています。



▲JBN会員向けニュースレター

### 道東自然系施設ネットワーク参加施設

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| ①知床世界遺産センター            | ⑧ネイパル厚岸            |
| ②知床自然センター              | ⑨塘路湖エコミュージアム       |
| ③羅臼ビジターセンター            | ⑩温根内ビジターセンター       |
| ④別海町野付半島ネイチャーセンター      | ⑪鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ |
| ⑤根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター | ⑫阿寒国際ツルセンター        |
| ⑥霧多布湿原センター             | ⑬阿寒湖畔エコミュージアムセンター  |
| ⑦厚岸水鳥観察館               | ⑭川湯エコミュージアムセンター    |

日本クマネットワーク Web <http://www.japanbear.org/cms/>

# 普及啓発事業



▲知床財団 HP のボランティアカレンダー



▲リニューアルした賛助会パンフレット



▲知床自然センターだより



## 情報発信・サポーター拡大業務

ご支援いただいている賛助会員に向けに会報誌を発行したほか、当財団の活動に対する理解と協力の輪をさらに広げるために、地元住民や旅行者向けに印刷物を発行した他、施設展示、ホームページなど様々な媒体を通して活動紹介を行いました。

### (1) 地元住民向けの情報発信

地元住民向けに、知床の旬の自然情報や当財団の活動やイベント情報をお知らせする「知床財団だより」を2ヶ月に1回発行、斜里と羅臼両町の広報誌に折り込みました。今後も、読みやすい自然情報や活動紹介を通じて当財団をより深く知っていただけるよう内容を工夫するとともに、知床財団だからこそお伝えできる住民の皆様に役立つ情報の発信に努めたいと思います。

2011年度7月から、知床自然センターの企画展示やイベント等のお知らせをまとめた「知床自然センターだより」も毎月発行し、地元宿泊施設および観光関係施設（全27施設）に配布しました。利用者に最新の情報を提供できると好評でした。

### (2) 旅行者向けの情報発信

2010年から旅行者向けに、当財団のPRや賛助会員獲得に向けた広報を展開しています。斜里・羅臼両町内の旅館やホテルなどの宿泊施設にご協力いただき、賛助会員向けの会報誌SEEDSを各部屋に置かせていただいております。2011年度は斜里町ウトロではホテルのみでしたが、羅臼町では民宿にも置かせていただきました。

### (3) ホームページによる広報の強化

当財団の活動に対する理解と支援の輪を広げる「伝える活動」の主軸として、ホームページでの情報発信を継続して行っています。簡単に情報を更新できるブログ形式のページでは、私たちの最新の活動を伝えるページを68回、知床の旬の自然情報を伝えるページを194回更新しました。

また、ホームページの部分的なリニューアルを行いました。ブログの整理統合を行ったほか、ボランティアの告知コーナーをカレンダーと連動させ、ひと目で年間の募集日程が分かるようにし、ボランティアを希望される方が計画を立てやすいうように工夫しました。

### (4) 賛助会の運営

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報紙SEEDSは、2009年度に季刊化され年4回発行のオールカラー印刷となりました。3年目となる2011年度も会員の皆さんには引き続き好評でした。

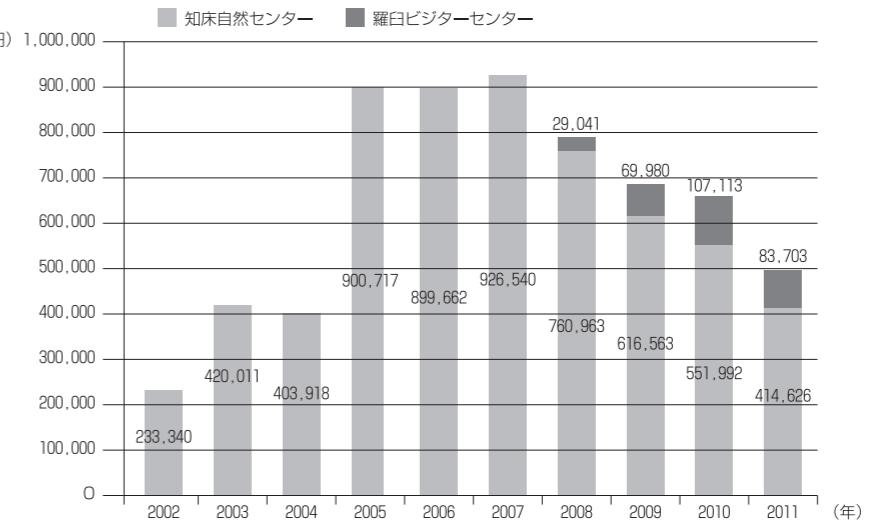
また、公益法人化を期に、賛助会員募集パンフレットをリニューアルしました。私たちの活動をわかりやすいイラストで紹介し、思わず中身を見たくなるようなデザインにしました。

### (5) 寄附拡大推進事業

当財団の活動への支援を募るため、2002年度より知床自然センター内に募金箱を設置しています。世界遺産登録以来、毎年約90万円の募金が寄せられていましたが、2010年度は50万円台、2011年度は40万円台と大幅な減少傾向にあります。知床自然センターへの入館者数が大幅に落ち込んでいることが、募金額の減少に大きく影響していると考えられます。

2008年度、羅臼ビジターセンターに設置した募金箱は、入館者の導線を工夫したほか、募金箱の側に

#### 募金箱への寄附額の推移



募金がどうようなことに使われるのかをわかりやすいイラストで紹介したものをおきました。結果として、募金額は前年度比78%の83,703円でしたが、当財団の活動を理解していただくための一役を担うことができたと思います。

ホームページや知床自然センター、羅臼ビジターセンターの館内展示では、今後も賛助会員募集や寄附の呼びかけ、そして寄付のお礼の掲載などに力を入れ、継続的な支援が知床財団の活動の支えとなっていることをPRしていきます。

## 普及啓発事業



▲ウトロ市街地の電気柵を補修する  
インターン

## 施設管理事業



▲知床自然センターで毎年行われている  
ミニレクチャー

### ボランティア活動推進業務

森づくり作業や普及活動を登録ボランティアの皆さんにお手伝いしていただいている。

#### ボランティア参加者

2011年度のボランティア登録者数は138名、その内の24名の皆さんのが「100平方メートル運動の森・トラスト」の森づくり作業や羅臼ビジターセンター周辺の遊歩道整備などに参加してくださいました。総活動日数は66日間におよび、のべ130人が当財団の活動を支えてくださったことになります。年齢層は10代から60代までと幅広く、道内のみならず遠くは関東地方からも駆けつけていただきました。

#### ダイキン工業株式会社のボランティア

ダイキン工業からのご支援の一環として、10月に社員ボランティア11名の方に3泊4日で森づくりのお手伝いをしていただきました。岩尾別川の河畔林をシカから守るための柵設置が今回の主な作業でした。



▲羅臼の遊歩道整備ボランティアの様子



▲ダイキン工業の社員の皆さんによるボランティア

### 人材育成・就業体験受入業務

インターンシップ（就業体験）の場として、11の教育機関より16名の学生を受入れました。野生動物の保護管理や調査研究から知床自然センターや羅臼ビジターセンターでの接客まで、幅広く体験してもらいました。また、新たな試みとして冬期も希望者を募集し、1人1ヶ月という長期間の受入れを行いました。

受入先（夏期）	件数	受入先（冬期）	件数
東京農工大学	2	明治大学	1
帯広畜産大学	2	日本大学	1
琉球大学	4	北海道大学	1
福井工業高等専門学校	1	東京農業大学	1
東京環境工科専門学校	1		
武蔵野美術大学	1		
グエルフ大学(カナダ)	1		

### ビジター向けインフォメーション

#### (1) 知床自然センター

##### 情報提供と館内展示

フィールド情報を積極的に収集し、最新情報を来館者に提供することで知床での自然散策をより楽しんでいただけるよう努めました。2010年度から開始した館内の柱を利用した展示は、来館者の人気投票の結果を踏まえたりニューアルを行い、質の向上を図りました。それにより多様な題材をわかりやすく展示することができたと同時に、知床自然センターを代表する魅力的な展示物へと発展させることができました。また、2011年度は柱展示を利用した来館者向けのレクチャーを積極的に行いました。今後もさらに質の高い展示内容となるよう継続的な改良とリニューアルを行っていく予定です。

知床自然センター周辺の再整備の一環として遊歩道新設のための測量作業、工作物設置の許認可申請準備などを行うとともに、センター内の展示物の一部リニューアルを行いました。



▲職員手作りの知床自然センター内の柱展示

##### ミニレクチャー

ゴールデンウィークと夏休みの期間、来館者を対象に、知床の自然の魅力や知床が抱える課題、知床財団の活動などについて、本物の骨格標本や毛皮、小道具などを用いながら職員が分かりやすく解説するミニレクチャーを無料で行いました。ゴールデンウィークは4月29日から5月7日までの9日間で117名の方に、夏休みは7月17日から8月25日までの40日間で515名の方にご参加いただきました。ミニレクチャーは職員の「伝える」技術を高めるための研修としても位置づけ、係や担当を超えて多くの職員が携わったほか、インターンシップ生の研修の場としても活用しました。

#### (2) 羅臼ビジターセンター

羅臼ビジターセンター周辺遊歩道の散策マップを一新し、来館者に配布しました。制作にあたっては、地元町民や自然に興味のある方と実際に散策を行って掲載する内容を決めるなどの工夫をこらしました。また、知床羅臼町観光協会との連携を深めるため、定期的に同協会の職員をインフォメーションスタッフとして受け入れ、交流をはかりました。

## 施設管理事業



▲ルサ・フィールドハウスの館内



▲知床五湖フィールドハウス



▲ダイナビジョン館にてスライドレクチャーを行った職員



▲知床自然教育研修所

### (3) ルサフィールドハウス

ルサフィールドハウスでは、知床岬の先端部などに立ち入る際のレクチャーが重要な業務の一つと位置付けられています。最近は先端部に立ち入る前にレクチャーを受けるだけではなく、クマスプレーやフードコンテナのレンタルを利用する人も多くなつてきており、フィールドに入る際のヒグマ対策の必要性が浸透してきている手ごたえを感じています。

### (4) 知床五湖フィールドハウス

2011年4月にオープンした知床五湖フィールドハウスには、利用調整地区の指定認定機関として当財団職員が常駐しています（「知床五湖利用適正化業務」参照）。地域内最大の観光スポットの新施設として多くのビジターが訪れますので、自然を守りつつ安全に楽しんでいただくためのルールの普及を第一とし、今後は、観光情報、自然情報、ガイドツアー情報の提供なども充実させていく予定です。

### (2) 知床自然教育研修所

ボランティアやインターン、外部研究者が活動する際の拠点となる知床自然教育研修所の維持管理を行いました。2011年度はのべ244名（1,078泊）の利用がありました。また、知識・技術の向上を図り交流を進める「しれとこゼミ」の場としても活用しました。

### (3) 知床五湖園地

ヒグマに関する安全管理、およびオートキャンプによるゴミの散乱を防止するため、斜里町からの委託を受け知床五湖園地の入口を夜間閉鎖しました。また知床五湖園地への給水設備の維持・管理を行いました。4月上旬に水源地から園地までの通水作業を、また11月中旬に水落とし作業を実施しました。

## 知床自然センター等管理運営業務

### (1) 知床自然センター等幌別地区の園地施設

知床自然センターおよび周辺施設の維持管理、映像展示館（ダイナビジョン館）の運営と料金徴収等の業務を行いました。2011年度の映像展示館入館者数は17,985名（前年比75.6%）、売上は6,250,416円で、いずれも過去最低の数字となりました。アサヒビール株式会社からのご支援を受け、2011年度よりダイナビジョン上映後のスライドレクチャーを本

格的に実施しています。職員が日ごろ撮りためた写真を使って、知床の見所や野生動物の生態、当財団の活動などを紹介する内容で、801回実施し8,380名の方にご参加いただきました。

**Asahi**

## 羅臼ビジターセンター管理運営業務

環境省および羅臼町と協力して施設管理を行いました。遠方からだけでなく、町内や近隣市町村から多くの方に来館していただけたよう、8回の特別展示と、5回の観察会を実施しました。また、ボランティアの方にご協力いただき、センターの周辺や遊歩道の環境整備を行いました。

館内展示物のうち、24点を新設、19点について注釈の追加やレイアウトの変更を行うなどの更新を行い、展示のリフレッシュをはかりました。2011年度のセンターの来館者数は31,376名で、前年度とほぼ同数でした。



▲観察会「化石発掘」の様子

## ルサフィールドハウス管理運営業務

2011年度は4月1日から10月31日および2月1日から3月31日の間、開館しました。来館者数は7,044人で、前年度比は91%でした。知床半島先端部の利用に関する問い合わせは増加傾向にあり、「知床のバックカントリー利用に先駆けた情報提供」という

この施設が担う役割が浸透してきている手ごたえを感じています。ヒグマとの危険な遭遇事例を展示にまとめるなど、工夫をしながら施設の運営にあたっています。

## 調査研究・ 野生動物対策事業



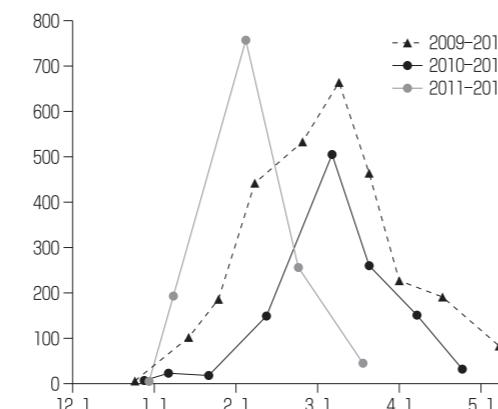
▲知床岬でのエゾシカ自然死調査

▲捕獲されGPS発信器付き首輪  
を装着したヒグマ

▲知床半島先端部に位置する赤岩地区

### エゾシカ個体群の動態に関する調査業務

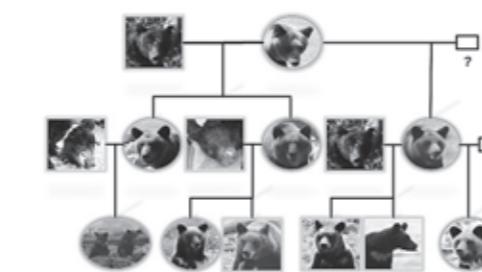
知床半島の一大エゾシカ越冬地になっている斜里町の真鯛地区で2011年4~5月、および2011年12月~2012年3月の日午後(約14km)から個体数をカウントしました。2012年の越冬期(2011年12月~2012年3月)には、2月3日に757頭と過去3シーズンで最多のエゾシカを確認しました。また、ウトロ地区と幌別・岩尾別地区で回収した自然死体数(餓死したと推測される個体、~3/31)は、25体と前シーズン、前々シーズン同期のそれぞれ14体、5体よりも多く確認されました。過去3シーズンでは、真鯛地区で最多のエゾシカを確認し、ウトロ地区と幌別・岩尾別地区で自然死体数が多かったことからも、今シーズンの冬はエゾシカにとって厳しい冬だったことがうかがえました。

真鯛地区の国道沿い(約8.5km区間)  
でカウントされたエゾシカの数

### ヒグマの生態等に関する調査業務

標識装着によるヒグマの行動追跡は、当財団が長年取り組んできた調査の一つです。今シーズンは新たにオス成獣1頭、メス成獣2頭の計3頭に標識を装着しました。このうち、メス成獣1頭に試験的に装着したGPS標識(首輪)は、人工衛星を介して位置情報を取得することができ、インターネット上で位置を確認することができる新しいタイプのものです。

ルシャ地区では、ダイキン工業株式会社からの支援事業として、北海道大学の協力のもと、直接観察と写真記録によるヒグマの個体識別と、それらを基にした個体識別を引き続きすすめました。また、体毛や体組織を採取し、性別判定や個体間の血縁関係の推定などを行いました。その結果、ルシャ地区に現れる成獣個体はメスが約15頭だったのに対し、オスは約4頭と少ないと、遺伝子分析からルシャ地区に定住するヒグマは遺伝的にあまり多様ではないことが明らかになりました。今後も遺伝子解析を進め、知床のヒグマが斜里側と羅臼側をどのように移動して生活しているのかを明らかにする予定です。

▲ルシャ地区で識別された血縁関係の一例  
(提供: 北海道大学)

### 知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務

#### (1) 知床岬漁業番屋ヒグマ被害 対策電気柵設置試験業務

知床岬先端部にある赤岩地区(羅臼町側)と文吉湾(斜里町側)はアクセス方法が船しかないためヒグマの被害が発生してもすぐに駆けつけることができず、例年ヒグマ対策に苦慮する場所でした。そこで漁業者の仕事と生活の場である番屋を電気柵で囲むことで、漁業者の安全を確保することを計画し、ルート選定、測量、必要資機材の購入を行いました。2012年度にあらためて電気柵を設置する予定です。

Asahi

#### (2) ウトロ高原農地ヒグマ被害 対策電気柵普及業務

ヒグマによる農業被害の防止手法を開発するため、2008年度からウトロ高原地区の農地で地元農家と共同で既存の防鹿柵の一部に電線を通し、ヒグマの侵入を防ぐための電気柵化をすすめています。2011年度はヒグマによる農業被害が多く発生するビート畑を優先して電気柵化を行いました。設置やメンテナンスなど管理方法についてのノウハウの蓄積も進めています。今後は電気柵の効果を検証した上で、農家に対する電気柵のさらなる普及に取り組みます。

### 希少鳥類などの長期モニタリング業務

冬期のオジロワシ・オオワシ飛来状況の長期変動傾向を把握するための調査に独自で取り組んだほか、オジロワシの繁殖状況調査も他の研究者と共同で行いました。これらの調査結果を、同様の調査に取り組んでいる他の研究者の調査結果も含めて集約・共有するための会議(知床半島オジロワシ長期モニタリング調査グループ会議)を2011年度も運営しました。またオジロワシ・オオワシ合同調査グループによる全道一斉の飛来数調査にも協力しました。



▲調査対象のオオワシ

## 調査研究・ 野生動物対策事業



▲標識付けされたトド



▲知床岬地区又吉湾内の岸壁につくキタムラサキウニ



### 海生哺乳類モニタリング業務

トドやアザラシなどの鰐脚類を中心とした海生哺乳類のモニタリングは、冬期に継続して行っています。年末年始に集中的に実施したトドの陸上からの定点カウント調査で、前年の同じ時期より約50頭少ない128頭を確認しました。また例年同様に、過去に千島列島でロシア人研究者らによって標識付けされた個体を、多数再発見しました。



### 水域における生物群集モニタリング業務

知床岬先端部の文吉湾内で近年目立つキタムラサキウニの大きさと年齢の関係について調べました。東北地方など暖かい水域に生息する群よりも成長が極めて遅いということが分かってきました。また、4歳（2008年生まれ）のウニが最も多く、最高齢は7歳でした。



### 学術的な交流と成果公表に関する業務

#### 口頭発表（2件）

- 増え続けるシカに対抗するツール：囲いワナ捕獲の課題と展望  
山中正実・石名坂 豪（知床財団）野生生物保護学会北海道大会 網走 2011年10月
- 知床半島の沿岸環境と生物多様性のモニタリング  
野別貴博（知床財団） 沿岸環境関連学会協議会シンポジウム 生物多様性条約第10回締約国会議の成果と沿岸環境の研究・政策の展望～愛知目標を中心に～ 東京 2012年2月。

#### ポスター発表（4件）

- 世界遺産登録後の知床半島東岸における、トドの越冬来遊状況  
石名坂 豪（知床財団）野生生物保護学会北海道大会 網走 2011年10月
- DNA分析のためのダートバイオプシーによる野生ヒグマの組織標本採取の試み  
山中正実（知床財団）・森脇 潤・坪田敏男（北大獣医）・中西将尚・増田 泰（知床財団）・下鶴倫人（北大獣医）野生生物保護学会北海道大会 網走 2011年10月
- 知床羅臼の深層水ポンプで得られたクサウオ科イシキウオ属の1未記載種および日本初記載種の *Careproctus ostentum*

町 敬介（富水研）・野別貴博（知床財団）・矢部 衛（北大院水産） 日本魚類学会 弘前 2011年10月

・北海道岩内町と羅臼町の深層水ポンプで採集された十脚甲殻類

藤谷秀明（北大院・水産）・野別貴博（知床財団）・五嶋聖治（北大院・水産） 日本甲殻類学会 東京 2011年10月

#### 学術誌

- Yamamura, O. and T. Nobetsu 2011 Food habits of threadfin hakeling *Laemonema longipes* along the Pacific coast of northern Japan., J. Marine Biological Association of the UK, 92: 613-621.
- Minami, K., H. Yasuma, N. Tojo, Y., Ito, S., Fukui, T., Nobetsu, and K., Miyashita 2012 Estimation of kelp forests thickness using acoustic method. Mathematical and Physical Fisheries Science, 9: 62-74.

- Machi, K., T. Nobetsu, and M., Yabe 2012 *Careproctus rausuensis*, a new liparid fish (Percomorphaceae: Cottiformes), collected from Hokkaido, Japan., Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl. 6: 33-40.
- Kondo, A. and S. Shiraki 2012 Preference for specific food species of the red fox *Vulpes vulpes* in Abashiri, eastern Hokkaido., Mammal Study 37: 43-46.

#### 報告書

- 野別 貴博・山崎 友資（2011）色丹島で確認された貝類. 知床博物館研究報告32: 25-30.

#### しれとこゼミ

- 主に知床自然教育研修所（斜里町ウトロ）等を利用した「しれとこゼミ」は9回開催し、当財団職員だけでなく地元自然ガイド、行政関係者、学生など、のべ197名の参加がありました。



### シホテアリン世界遺産交流業務

**Asahi**

ロシアのシホテアリン世界自然遺産地域は、ヒグマやシマフクロウが生息するなど知床との共通点が多くあります。そのため、両者が交流の場を持つことによって、進化の歴史や絶滅危惧種の保全に向けた新たな取り組みが期待されます。

2011年度、シホテアリン自然保護区長を知床に招聘し、交流事業の実施を検討していましたが、東日

本大震災とそれに伴う原発事故の影響で残念ながら実現に至りませんでした。しかし、その後も先方は知床との交流について非常に前向きであることから、2012年度の招聘あるいはこちらからの訪問の実現にむけて、双方のスケジュールの調整を継続して進めています。

## 調査研究・ 野生動物対策事業



▲酪農学園との協定式の様子



▲ヒグマに食い荒らされた農作物ビートの畠



▲ヒグマに破られた庭を囲うネット



### 酪農学園大学との連携協力業務 *Asahi*

酪農学園大学と知床財団は、これまで学生実習の受け入れや共同研究などの交流を続けてきました。この関係を強化し、より多角的に展開することを目的として2011年6月に「包括的な連携と協力に関する協定」を締結しました。

学生の論文執筆のための現場での受け皿となる一方で、G I S (Geographic Information System)ソフトの相互活用、道内各所で問題となっているエゾシカの個体数調整に双方の強みを連携投していくことなど、具体的な事業展開についておおよその

方向性と合意を形成しています。G I Sのライセンス貸与については既に活用に着手しています。

また9月には、学生42名を対象とした3日間の実習を受入れたほか、酪農学園大学とのコラボレーションイベントとして、札幌市円山動物園において当財団職員による講演や酪農学園大学の准教授・講師との対談、園内でのクイズラリーや普及啓発活動を行いました。

一方で、通行規制が解除された道道知床公園線の知床五湖からカムイワッカ、硫黄山登山道までの区間での目撃件数が増加しました。

#### 羅臼側

羅臼町からの受託事業として、町内一円においてヒグマの出没情報収集、出没対応、駆除を要する対応時の獣友会との連携、普及啓発活動など対策事業全般を実施しました。

2011年度の羅臼町内におけるヒグマ目撃件数は270件、対応件数は217件に達し、後者は前年度の2倍の件数でした。6~7月は、トドやアザラシといった海獣類の死亡漂着に伴うヒグマの出没が町内全域で相次ぎました。こうした海獣類の漂着死体は毎年数件確認されていますが、今年度は特に多かったと言えます。そして、10~11月には海岸沿いに住宅が帶状に密集している海岸町から岬町にかけての地区で、河川に遡上してきたカラフトマスを狙って多くのヒグマが出没しました。河口に出没していたヒグマは、徐々に人の生活圏に姿を現すようになり、干してあった魚を食べてしまうなど、人とヒグマの間

## ヒグマ管理対策業務

### 斜里側

人とヒグマの軋轢回避のために、町内一円のヒグマに関する危機管理対策として出没情報の収集や追い払い、ヒグマを誘引するシカ死体などの回収、電気柵の管理、普及啓発活動などを実施しました。

2011年度の斜里町内におけるヒグマ目撃は、829件と過去10年間で2番目に多く、対策活動は575件に及びました。また、ヒグマの捕獲数（狩猟・駆除など）も目撃件数と同様に27頭と過去10年間で最も多くなりました。いずれも一市町村としては突出して多いと言えます。目撃件数は7月と10月に多く、目撃場所の約85%が知床国立公園内でした。対策活動の内訳は、ヒグマの出没に伴う緊急出動や追い払い等の直接的な対応が405件、ヒグマの出没やヒグマとの危険な遭遇を未然に防ぐための活動が170件でした。

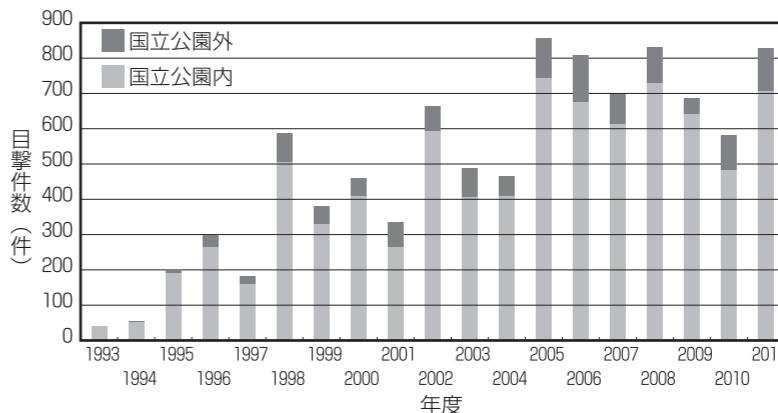
6月には2010年度に引き続き斜里市街地への単独ヒグマの侵入が相次ぎました。町からの要請を受け急遽電気柵を設置し、出没地点周辺をパトロールするなど、町民の安全確保に努めました。

山林に面した農地では6月以降、ヒグマによる農作物被害が本格化しました。農地での対応は斜里町が出動を要請した獣友会員と連携して行いました。

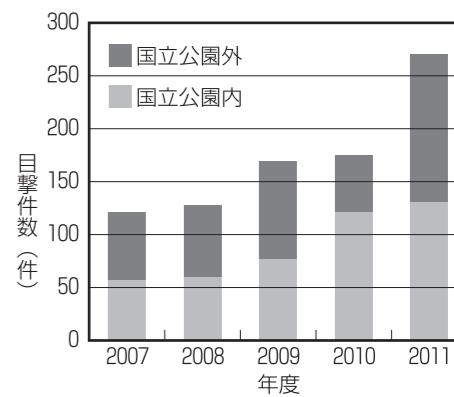
10~11月には、夜間に2頭のヒグマがウトロ市街地にたびたび侵入、干し魚やゴミを荒らし、そのうちの1頭は民家のベランダに入るまでの状態となっていました。この2頭は最終的に駆除となり、ヒグマとのつきあい方が決して簡単ではないことを改めて認識させられました。また、国立公園内でもヒグマがゴミを荒らす事例が10月と11月に各1件、計2件発生しました。

知床五湖地区での目撃件数・対応件数が減少した

### 斜里町のヒグマ目撃件数（年度別）



### 羅臼町のヒグマ目撃件数（年度別）



## 調査研究・ 野生動物対策事業



▲知床岬に設置された仕切り柵



▲囲いワナに入ろうとするエゾシカ

### 自然環境管理対策業務

#### 斜里側

自然環境保全のためのパトロールや普及啓発、傷病鳥獣の受け入れ（知床博物館と連携）、夜間に車で走りながら周囲をライトで照らして発見した動物種や個体数等を記録するライトカウント調査のほか、エゾシカ有害駆除個体の下顎骨計測などを行いました。

傷病鳥獣の受け入れ件数は18件で、その内訳はエゾシカやエゾタヌキなどの哺乳類が13件、カモメやトビなどの鳥類が5件でした。特定外来種のアライグマに関しては、目撃情報2件、足跡の情報1件が半島基部で報告されました。ライトカウント調査は、春期と秋期に各5回、幌別地区と岩尾別地区でそれぞれ行いました。エゾシカの下顎骨は、185頭分について各部の計測、年齢査定のために歯のサンプル採取を行いました。



▲エゾシカの下顎測定の様子

#### 羅臼側

羅臼町内一円での自然環境保全のためのパトロール、普及啓発、傷病鳥獣の受け入れ、野生生物の生息調査および保護管理業務を羅臼町と連携して実施しました。傷病鳥獣の対応は94件、内訳はエゾシカが最多で50件、その他が44件でした。オジロワシなど希少鳥類の傷病個体への初動対応も5件ありました。また、特定外来生物のアライグマが9月23日に峯浜町の酪農家倉庫で1頭捕獲され、これは捕獲記録としては知床半島での初記録となりました。主にエゾシカを対象としたライトカウント調査は、春期と秋期に各5回、ルサ-相泊地区において実施しました。自然環境保護管理業務として行った26回のパトロールでは、不法投棄された食品系ゴミを複数回発見し、回収しました。



▲羅臼で捕獲された特定外来種アライグマ

### エゾシカ関連業務

知床半島ではエゾシカの高密度状態が長く続いているため、特にエゾシカの越冬地を中心とした植生への悪い影響が進行中です。現状を放置した場合には、植生の回復が困難になってしまうことが懸念されています。このような状況を改善するため、当財団は環境省や林野庁の委託業務として2007年より適切なエゾシカの個体数管理の手法を検討する事業を実施しています。2011年度から新たに囲いわな、くくりわな、シャープシューティング（以下、SS）といった新しい捕獲手法が斜里町・羅臼町で試験的に実施されました。なお、捕獲したエゾシカはすべて有効利用施設に運ばれています。また、知床近隣の地域でもエゾシカによる植生への影響を調査しました。

#### (1) 知床岬

知床岬でのエゾシカの捕獲は5年目を迎えました。シカ捕獲用の柵が秋に新設され、2011年度の冬は柵を利用した初めての捕獲となりました。流氷が接岸する3月にヘリコプターを使った日帰り捕獲を行いました。計131頭を捕獲しました。1回当たりの捕獲数は過去最多であり、非常に効率的にシカを捕獲することができました。過去5年間での捕獲数は合計600頭となり、岬の越冬数は着実に減ってきてています。

知床岬の越冬数をセスナ機からカウントする航空カウント調査を捕獲前の2月に1回実施し265頭を確認しましたので、計算上は1回の捕獲で約半数を捕獲できたという結果になりました。

#### (2) 幌別-岩尾別地区

2011年度より100平方メートル運動地である幌別-岩尾別地区で新たにシカの捕獲実験を行いました。1~3月に3つの捕獲方法（小型囲いわな、くくりわな、SS）を用い、合計369頭を捕獲しました。知床自然センターの裏に小型囲いわなを設置してシカを餌でおびき寄せ、合計85頭を捕獲しました。国立公園入り口付近の国道脇にくくりわなを約20基設置し、58頭を捕獲しました。冬期閉鎖中の国立公園内の道路沿いでは、餌付けでおびき寄せておいたシカを車から銃で撃つというSS方式を導入しました。9回実施し合計226頭を捕獲しました。

## 調査研究・ 野生動物対策事業



▲くくりワナを設置する職員



▲シャープシューティング



▲昆布浜に設置された電気柵

### (3) ルサー相泊地区

羅臼町のルサー・相泊地区では、1月から3月に合計171頭を捕獲しました。

ルサ川左岸の大型囲いわな（2年目）では74頭を捕獲しました。また同地区南半分の北浜から昆布浜にかけての区間では、全国初の試みとなった公道を一時通行止めにしてのSSに加え、巻き狩り、小型囲いわなの、3つの方法で捕獲を試行しました。SSで53頭、巻き狩りで29頭、小型囲いわなで15頭を捕獲しましたが、希少猛禽類への配慮や道路法面工事などの制約から、巻き狩りの実施時期が2月のみに限定されたり、小型囲いわなが雪崩で半壊したりと苦労がたえませんでした。

### (4) 春苅古丹地区

林野庁（根釧東部森林管理署）からの受託事業として、羅臼町の春苅古丹川流域でエゾシカの囲いわな捕獲を実施しました。12～2月の事業期間中に計96頭を捕獲しました。

### (5) 阿寒国立公園エゾシカ対策 冬期基礎調査業務

知床国立公園にほど近い阿寒国立公園で、エゾシカの越冬状況や阿寒国立公園に特有の植生への影響に関する基礎調査を行いました。その結果、摩周力ルデラでは97頭の大規模越冬群を確認しました。また、地熱のため厳冬期でも積雪がない噴気孔原植生では、エゾシカの踏圧の影響を受けて植生が荒廃している箇所があることがわかりました。この結果をもとに、来年度以降の本格的な調査を実施するべきであるとの提言を行いました。



▲阿寒での植生調査の様子

## 外来生物の調査・対策

### (1) アメリカオニアザミ

知床岬に繁茂していた外来種のアメリカオニアザミ（以下、アザミ）は、2004年から2010年の7年間の駆除作業とエゾシカ捕獲による在来植生の回復により、分布範囲が著しく縮小し、株数も減ってきてています。2011年度は、再び増えてしまわないように残る株を刈り取る作業を4回行いました。アザミは一度株を根元から刈り取っても地表付近から複数の新たな芽を伸ばすので駆除も同じ場所で複数回行わなくてはなりません。



▲アメリカオニアザミを刈る職員

### (2) セイヨウオオマルハナバチ

知床岬では2009年度から毎年、特定外来種セイヨウオオマルハナバチが確認されています。ハチが好む花がある場所を見つければ観察・捕獲するという作業を繰り返して地道に駆除を進めています。4回の捕獲作業の結果、38頭の働きバチを捕獲しました。しかし、女王バチの捕獲には至っていませんので、今後の分布拡大が懸念されています。

▲アメリカオニアザミに訪花していた  
セイヨウオオマルハナバチ

## 野生鳥獣対策フェンス等設置及び検証業務



ダイキン工業株式会社からの寄付事業として、国立公園内に漁業番屋が集中立地し、ヒグマの目撃件数が多い羅臼町のルサー・相泊地区と、鳥獣保護区に取り囲まれる形で住宅や公共施設等が密集していて危険度が高い羅臼中心市街地を電気柵で囲み、地域住民の安全と安心を確保しようとする5ヵ年計画の

事業が始まりました。初年度となる2011年は、ルサー・相泊地区のほぼ中間点にある昆布浜に約750mの電気柵を設置し、ヒグマやエゾシカの道路への侵入防止効果や、地域に適した設置方法等を検証しました。

## 調査研究・ 野生動物対策事業



▲海岸に漂着したゴミを調査する職員



▲サケ科魚類遡上数や産卵床を箱めがねで調査する職員



▲科学委員会の様子

### オオセグロカモメの調査等業務

羅臼町からの受託事業として、オオセグロカモメの調査とエゾシカ対策などを行っています。オオセグロカモメは羅臼町内では人家の屋根で多数が営巣し、糞害が問題になっています。またエゾシカは花壇や家庭菜園の防獣網に絡まることが多く、時々そのシカがヒグマを庭先に誘引してしまうこともあります。先ずオオセグロカモメについては、生息状況把握のため2010年度に引き続き営巣状況に関する調査を行いました。エゾシカ対策としては、2010年度の実験でエゾシカが絡まりにくいことが実証された、目の細かい太めの網の情報を町民へ向け広報す

るとともに、モニターの募集を行い、7軒の住宅へ無料で網の配布を行いました。また、羅臼町内では「シカよけ網」という商品名で市販されている網に頻繁にエゾシカが絡まっているため、販売元への仕入れ中止等の協力要請も行いました。



▲オオセグロカモメの営巣場所と数を調査する職員

### 遺産地域調査業務

#### (1) 海岸漂着ゴミ

2009年度に知床岬とルシャ地区で海岸漂着ゴミの回収を行いましたが、2011年度はその後のゴミの増減について知床岬で調査を行いました。その結果、ペットボトルを含むプラスチックゴミが多少増えていましたが、全体的に大きな変化はありませんでした。

#### (2) サケ科魚類調査

ダムに魚道が設置された羅臼町のチエンベツ川でサケ科魚類の遡上数・産卵床数を計数し、改良効果について調べました。カラフトマスについては、明らかな改良効果が見られました。シロザケについては魚道の上流側に遡上する割合がカラフトマスほど高くないという結果が得られていますが、これまで長年にわたりダムの下流側で産卵を繰り返していた影響があるのではないかと推測されています。また、羅臼町のルサ川と斜里町の幌別川ではカラフトマスとシロザケの遡上状況の確認調査を行いました。両河川はダムのない河川で、2年に1度調査が行われています。2011年も良好な状態であることが確認されました。

### 科学委員会等運営業務

科学委員会会議やその関連会議は、知床世界自然遺産地域を適切に管理するために科学的な見地から行政への助言を行っており、これらの会議の委員は、道内外の多分野の研究者や専門家によって構成されています。当財団は科学委員会（7/24 斜里町、2/21 札幌市）、エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ（6/12 銚路市、10/29 斜里町）ヒグマ保護管理方針検討会議（8/4 斜里町、2/22 札幌市）の運営事務局として日程調整、会場準備、資料・議事録の作成などを担いました。

## 公園利用管理事業



▲閉鎖中の地上遊歩道入口にあらわれた  
ヒグマ



▲硫黄山登山口

### 知床五湖利用適正化業務

知床五湖では2011年5月10日より自然公園法の利用調整地区制度に基づく新しい利用システムが導入されました。新制度はヒグマに関するリスク管理体制、観光地における認定ガイド制度など、様々な面で先進的な取り組みとして注目を集めています。当財団は制度運営の要となる指定認定機関(環境大臣指定)として制度全体の運用を担いました。利用調整期間中(5/10~10/20)の地上遊歩道利用者は59,591人で、当初の予想値(3~4万人)を大きく上回り、アンケート調査による満足度も非常に高いもの

でした。同期間のヒグマ遭遇による遊歩道閉鎖は36回ありましたが、いずれも1日以内に利用再開され、終日閉鎖になった日はありませんでした。制度の目的の一つである安全で安定的な遊歩道利用についても一定の成果が得られ、新制度初年度は概ね成功したと言えます。シーズン終了後も利用状況を分析し、旅行業界への説明会などを実施して、新制度の趣旨と利用方法の周知に努めました。



▲知床五湖認定ガイドによるツアー風景

### 適正利用・エコツーリズム検討業務

よりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参加しています。知床エコツーリズム推進協議会の事務局として、協議会のホームページを運用するとともに、斜里町・羅臼町の観光協会を主体として行われるエコツーリズム関連事業に協力しました。また、適正利用・エコツーリズム検討会議(世界遺産科学委、適正利用・エコツーリズムWGと地域連絡会議、適正利用・エコツーリズム部会の合同会議)に積極的に関わり、知床全体のエコツーリズム戦略の策定に参画しています。

また、知床五湖の利用システムを広く地域の皆さんに体験してもらうため、「知床五湖町民還元キャンペーン」を10月に実施し、58名の斜里・羅臼町民の方に無料で知床五湖の新システムを楽しんでいただきました。

### カムイワッカ地区利用適正化業務

2011年度は知床五湖からカムイワッカの滝までの区間のガケ崩れ防止工事が終了したことにより、6年ぶりに一般車のカムイワッカ地区への乗り入れが再開しました。これに伴いシャトルバスの運行期間が70日から35日に変更になったほか、道路特例使用申請を行えば硫黄山登山口の利用が可能になるなど、カムイワッカ地区の利用環境が大きく変わりました。当財団は自動車利用適正化対策連絡協議会から現地調整業務を受託し、バス会社や各地に配置された警備員や巡回員との連絡調整、利用状況の調査

や利用者への情報提供、ヒグマ出没時の連絡整理、負傷者への対応などを五湖フィールドハウスを拠点に行いました。

## 森林再生事業



▲エゾシカに侵入された柵のかさ上げ作業



▲岩尾別川流域のカツラの母樹の調査風景

### しれとこ100平方メートル運動森林再生業務

斜里町主催「しれとこ100平方メートル運動」の開始から34年、新運動「100平方メートル運動の森・トラスト」として原生の森の再生に向けた取り組みが始まり14年が経過しました。この知床の森を守り育てる取り組みの中で、当財団は、森づくり作業やしれとこの森交流事業など100平方メートル運動に関わる現地業務を担っています。

#### (1) 森林再生作業

森づくり作業は、5年ごとの回帰作業方式としています。2011年度は、3順目の回帰作業の4年目に当たり、岩尾別台地の第4区画を中心に作業を行いました。

苗畑では、広葉樹の苗木育成や植樹、樹皮保護ネットのメンテナンス作業などを行いました。本格的な森づくり開始当初に設置した防鹿柵の木製の柱などは、腐食や劣化が進み交換の時期にきていました。そのため、順次、運動地各地の防鹿柵の改修作業を進めています。この冬は記録的な大雪の影響で、2か所の防鹿柵内にシカが侵入し、一部の苗木を食べられてしまいました。各防鹿柵では、毎年の雪の状況を確認しながら、必要に応じて柵を高くしてきましたが、想定を超える積雪により今回の事態に至ってしまいました。

#### (2) しれとこの森交流事業

森づくりの現場と運動参加者をつなぐ交流事業では、「第32回知床自然教室」（7月30日～8月5日、参加者33名）、「第15回森づくりワークキャンプ」（10月30日～11月4日、参加者15名）、「第15回しれとこ森の集い」（10月16日、参加者124名）の企画・運営を行いました。

また、5泊6日の日程で森づくり作業に打ち込む「森づくりワークキャンプ」は、リピーター参加者が多く、交流事業を推進していく上で大きな柱になっています。



▲ワークキャンプでの移植作業

#### (3) 森林再生専門委員会議運営

森づくり作業の方針や計画は、動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会議の場で議論が行われ、その方向性などが定められています。当財団では、2011年度の活動の成果と課題をまとめるとともに、2012年度の森づくり作業の具体的な方針や計画案を、斜里町と検討を重ねながら立案しました。11月に開催された森林再生専門委員会議では、特に高密度に生息するエゾシカへの対応方針などが議論されました。

#### (4) 運動地広報企画

100平方メートル運動の広報誌「しれとこの森通信No.14」の企画・編集作業を行いました。また、当財団ホームページのブログにて、日々の森づくり作業の様子を発信しているほか、斜里町の「しれとこ100平方メートル運動ホームページ」への掲載用写真の提供も行い、マスコミ等の取材も積極的に受けています。

#### (5) 河畔林と河川の自然再生業務

ダイキン工業株式会社からのご支援により、岩尾別川沿いの河畔林の復元と河川環境の改善を目的とした「カツラの森、命あふれる川の復元事業」が2011年度から始まりました。岩尾別川沿いの自然復元作業は従来も行われてきましたが、今後5年間におよぶご支援によってより本格的な復元作業を推し進めることができるようになりました。

2011年度は、河畔林復元の第一段階として、現存する河畔林の一部を囲う防鹿柵（0.3ha）を1基設置しました。この防鹿柵の設置には、ダイキン工業の社員ボランティアの皆さんにもお手伝いしていただきました。また岩尾別川流域でのカツラの母樹の分布調査を行いました。その結果、この河川の流域には、163本のカツラの母樹が現存していることがわかりました。

河川環境の改善に向けた取り組みでは、川の中に大きな石を配置することで、瀬や淵をつくり、オショロコマなどの魚の生息環境とサケやマスの産卵環境の改善を図っていくことを計画しています。2011年度は、実施場所の選定とともに、具体的な作業方法について検討を行いました。この作業は2012年度から本格的に開始する予定になっています。



## 森林 再生事業



▲河川の構造調査の様子



### しれとこ100平方メートル運動普及推進業務

本業務は、斜里町主催「100平方メートル運動の森・トラスト」の安定的な継続と発展を図るため、運動の現地業務を担う当財団が斜里町と連携を図りながら独自事業として取り組んでいるものです。

#### (1) 普及推進業務

2011年度は、運動の趣旨に賛同する企業や団体、教育機関を対象に、運動地を歩きながら100平方メートル運動や開拓の歴史などを紹介するとともに実際の森づくりの作業も経験する運動地公開プログラムを行いました。地元の斜里高校の生徒や知床愛護少年団を始め、日本赤十字北海道看護大学の学生など約250人が知床の森を訪れ、運動と森づくりにふれました。

また、4泊5日の合宿イベント「知床森づくりの日」を計3回開催しました。計25名の参加があり、作業に汗を流しました。冬期は知床自然センター周辺に「スノーシュー・歩くスキーコース」を設置し、利用者に運動と森づくり作業を紹介する地図を配布して普及と公開に努めました。



▲開拓時代の小屋に宿泊体験した地元の愛護少年団

#### (2) 岩尾別川河川調査及び生物相復元

「カツラの森、命あふれる川の復元事業」をはじめとする岩尾別川流域での各種作業の成果を検証するため、対象となる生物種や河川環境について、現状把握と河畔林と河川環境の調査を行っています。

河川生態系の復元においては、今後100平方メートル運動において生物相復元対象として位置づけられているカワウソの復元を将来の究極目標とし、その可能性についての検討を行っていきます。なお、本事業は知床博物館の他、東京農業大学など外部の研究者と連携を図りながら進めています。

2011年度は流域に定点のポイントを設け、魚類の生息状況と河川構造の現状を把握する調査を行いました。これらの調査結果は、今後、河川環境の改善に向けた作業を進めていく際に、その成果を測る指標となります。また、生物相復元については、知床博物館の学芸員がカワウソの国際会議（イタリア）に出席し、カワウソ復元に関する海外事例の収集や、海外の研究者とのネットワーク構築を図りました。その他、カワウソと生息環境が競合すると推察されるアメリカミンク（外来種）について、知床半島での分布を文献や目撃情報をもとにまとめました。

## 収益事業

▲2011年5月に開設したオンラインショップ「コムヌプリ」

## 販売・有償貸出業務

### オリジナル商品の開発

当財団の活動を広く知ってもらうことを目的に、オリジナル商品の開発をしました。2011年度は株式会社フェニックスのご厚意により、商品価格の10%が当財団の活動への寄付金となる知床財団ロゴマーク入りのオリジナルTシャツを作成していただき、好評をいただいています。

### オンラインショップの開設

5月よりオンラインショップ「コムヌプリ」の運営を開始しました。3月末現在で、81件の売上がありました。12月からは、賛助会員の利便性向上および新規会員の獲得を目指して、コムヌプリ上で個人年会員の新規登録や更新登録をすることが可能になりました。すでに一部の会員様にご利用いただいており、3月末までに40口のご利用がありました。

URL <http://shop.shiretoko.or.jp>

### レンタルサービス

知床自然センターで夏季を中心に長靴・双眼鏡の有料貸出しを実施しました。来館者の少なくなる冬季は、入館促進および来館者の満足度向上のために株式会社ユートピア知床でのスノーシュー無料貸出にあわせて、長靴の貸出しを無料で行いました。のべ1,626名の方にご利用いただき、大変好評でした。今後も同サービスを継続することを検討しております。



▲株式会社フェニックスの協力のもと販売したオリジナルTシャツ

# 収益事業

# 法人会計

## ヒグマ撃退スプレー・フードコンテナの貸出

知床自然センター、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの有料貸出しを行いました。また、羅臼岳登山道入り口にある木下小屋へヒグマ撃退スプレーの貸出しを委託し、登山者に利用してもらいました。貸出しの際には利用者に契約内容や使用方法について2ヶ国語(日本語と英語)対応のスライド画像

を用いて20分程度のレクチャーを受けてもらっています。2011年度は、羅臼岳登山道上でシカを襲ったヒグマと登山者が至近距離で遭遇する事件がありました。今後もヒグマ撃退スプレーやフードコンテナの重要性をビジターに広く呼びかけていきます。

## 研修実習受入業務

当財団が担う野生動物保護管理、調査研究や公園管理の実績を反映した研修プログラムとして、国際協力機構(JICA)主催の海外からの研修生向けの研修や北海道大学獣医学部生の研修などを受け入れました。他にも、道内外の各種団体からの講演依頼、知床でのレクチャー対応、行政視察対応を通じて、知床の価値を広く伝える活動を行いました。

### 研修・講演・視察対応等受入実績

研修・実習	北海道大学 日本赤十字北海道看護大学 JICA 酪農学園大学 小清水高等学校 屋久島観光協会 北海道JICA帰国専門家連絡会
講演	西部学園文理小学校 東京農業大学 安全登山シンポジウム 電機連合 屋久島世界遺産シンポジウム

行政 視 察  ヒ グ マ 対処法研修	千葉県白石市議会
	佐世保市議会
	広島市議会
	斜里建設工業
	札幌市定山渓自然の村
	山洋建設
	阿寒国立公園パークボランティア

## 財団法人管理運営業務

2011年4月1日より公益財団法人に認定され、新しい代表理事(2名)体制で公益法人移行後最初の1年を終えました。理事会は、5月に事業報告・決算及び第1回補正予算などについて、10月に第2回補正予算及び寄附金規程などについて、12月に第3回補正予算及び賞与支給率の変更等について、3月に第4回補正予算及び2012年度事業計画・予算等について審議し、年4回開催しました。定時評議員会は5月に事業報告・決算等について、臨時評議員会を10月に開催し理事の辞任・選任を審議しました。他、代表理事と事務局の年2回以上開催が義務づけられている運営会議を開催しました。その他、当財団の役員の方々に向け、事務局の最新の動向をお知らせする「財団ニュースレター」を、10月に発行しました。

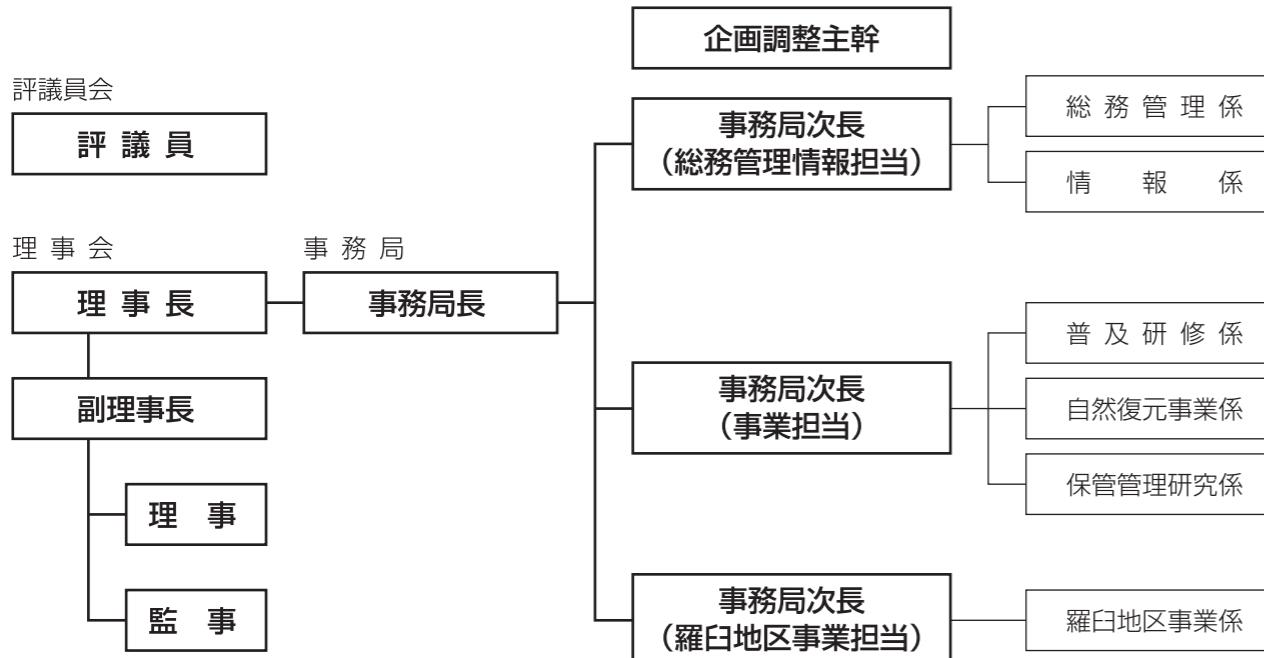
### 役員

理事長	関根郁雄
副理事長	辻中義一
理事	佐々木富美男
//	佐々木泰幹
//	大瀬昇
//	石田順一
//	北雅裕
監事	中川元
//	宮腰實
評議員長	高橋一三
評議員	吉野弘志
//	木野本伸之
//	遠山和雄
//	金澤裕司
//	吉野英治
//	小川雅勝

# 組織概要

名 称 公益財団法人 知床財団（2011年4月に名称変更 旧名称 財団法人 知床財団）  
 設 立 昭和63年（1988年）9月23日  
 設 立 者 斜里町・羅臼町  
 基本財産 4,500万円  
 所 在 地 〒099-4356  
 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地 知床自然センター  
 目 的 この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発等の事業を行い、もって広く自然保護の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。  
 事 業 (1) 野生動植物の調査・研究  
 (2) 自然保護の普及啓発  
 (3) 自然保護に関する諸団体との提携  
 (4) 自然環境の保全管理及び公園施設等の管理運営受託業務  
 (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業  
 職 員 31名

2012年4月末



知床の価値ある自然を  
私たちと一緒に守りませんか

<http://www.shiretoko.or.jp/supporter/supporter.htm>



## 知床財団の賛助会員制度

会員になると、知床自然情報誌SEEDSや刊行物を定期的にお届けする他、知床自然センターの映像展示館の入館料免除、各種特典があります。

個人年会員	5,000円/年	法人年会員	20,000円/年
個人終身会員	100,000円/終身	法人特別年会員	100,000円/年
寄付	おいくらからでも受け付けています。 (5千円以上のご寄附いただいた方に本誌を1部お送りします。)		

●振込先 郵便振替 02750-2-37694 ●加入者名 公益財団法人 知床財団

